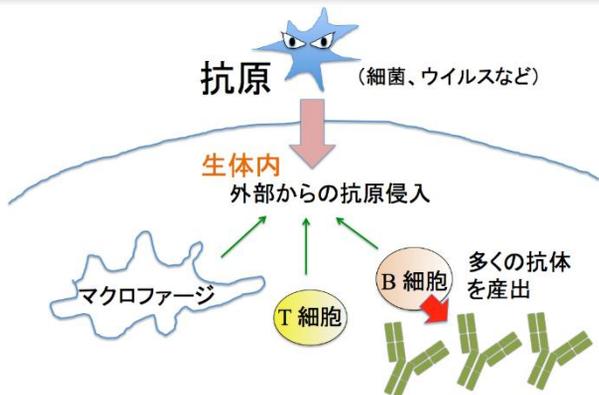
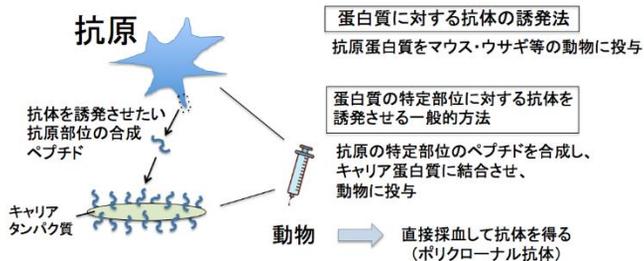


テーラーメイドの抗蛋白質抗体誘導法

抗体：B細胞が産出する最強の細胞内“ミサイル”



抗体産出の従来技術とその問題点



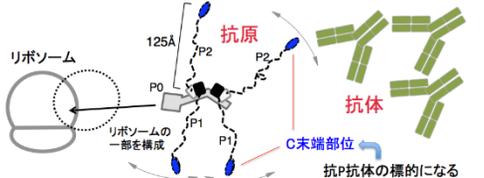
問題点

- ・微生物からヒトまで共通に存在する蛋白質や特定部位に対する抗体誘発が困難な場合が多い
- ・得られる抗体の反応性が乏しい場合も多い

問題解決に向けたアプローチ(1)

リボソーム自己抗原の実態を探る研究

- 抗リボソーム抗体(抗P抗体)の標的は? 一部のリボソーム構成蛋白質P1/P2の共通C末端部位(抗P抗原)
- 抗P抗体の産出頻度(強度)は? SLE患者の10~40%がこの抗体産出する
- P1/P2蛋白質の構造面の性質は? 複合体をつくりC末端部位は広範囲に運動している

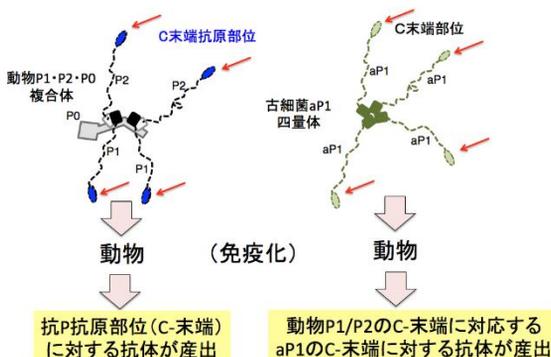


P1・P2・P0複合体の性状が抗P抗体の高い産出頻度と関係があるのかもしれない

-----KKEESEESDDMGFGFLFD (C末端部位のアミノ酸配列)

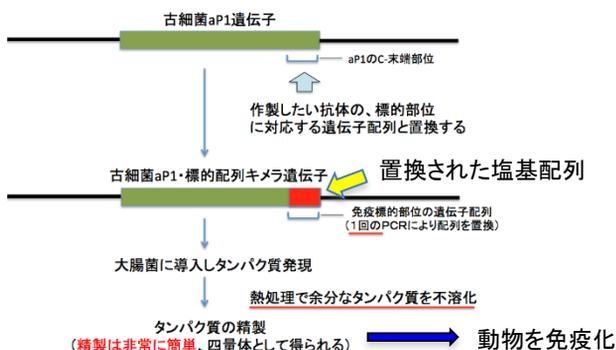
問題解決に向けたアプローチ(2)

古細菌のaP1タンパク質を使った動物免疫化実験

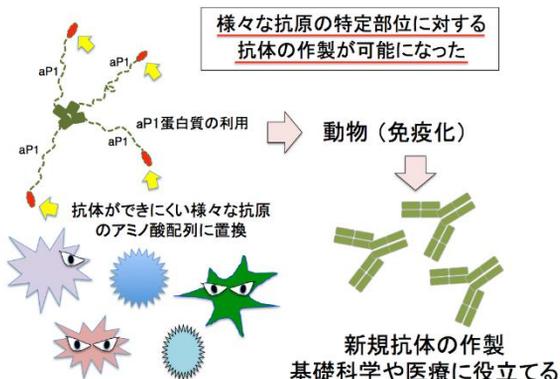


問題解決に向けたアプローチ(3)

古細菌aP1・標的配列キメラ抗原の調製



この技術で何ができるようになったか



本技術の問い合わせ先

新潟大学 地域創生推進機構

TEL:025-262-7554 FAX:025-262-7513 E-mail:onestop@adm.niigata-u.ac.jp